

「早香」の着色を促進する予措方法						
<p>[要約]</p> <p>「早香」の <u>8～9分着色果</u>は、15日程度の<u>20℃予措</u>をすることで<u>着色</u>が促進され、<u>果実の減量</u>、<u>しなび果</u>の発生が少なく<u>鮮度保持</u>効果も高かった。</p>						
長崎県果樹試験場	専門	育種	対象	他のかんきつ類	分類	指導
平成4年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

「早香」は12月上旬には成熟するが果頂部の着色が遅れるので、収穫果実の着色促進に効果的な予措方法を検討した。さらに、着色促進と鮮度保持に有効な20℃予措の期間を明らかにした。

[成果の内容・特徴]

- ①20℃予措によって果皮の着色が促進され、6～7分着色、8～9分着色果は、処理15日後にはほぼ完全着色となる。
- ②エチレン発生剤（甘熟パック10g/果実7kg）を使用した場合も着色が促進され、処理15日後にはほぼ完全着色となる。
- ③果皮のa/b値は処理時に着色が進んでいた果実ほど高い傾向である。
- ④甘熟パック区及び対照区は、果実の減量、果面のしなびが著しく、20℃予措区は処理26日後には浮き皮果の発生が多い。

[成果の活用面・留意点]

- ①20℃予措、あるいはエチレン発生剤により着色を進めることで商品性が高まり、年内に全量出荷することができる。
- ②湿度が高いと浮き皮果の発生が多くなる恐れがあるので過湿にならないように注意する。
- ③エチレン発生剤は使用量が多いとへた枯れが発生しやすいので、果実の量にあわせて調整する。

[具体的データ]

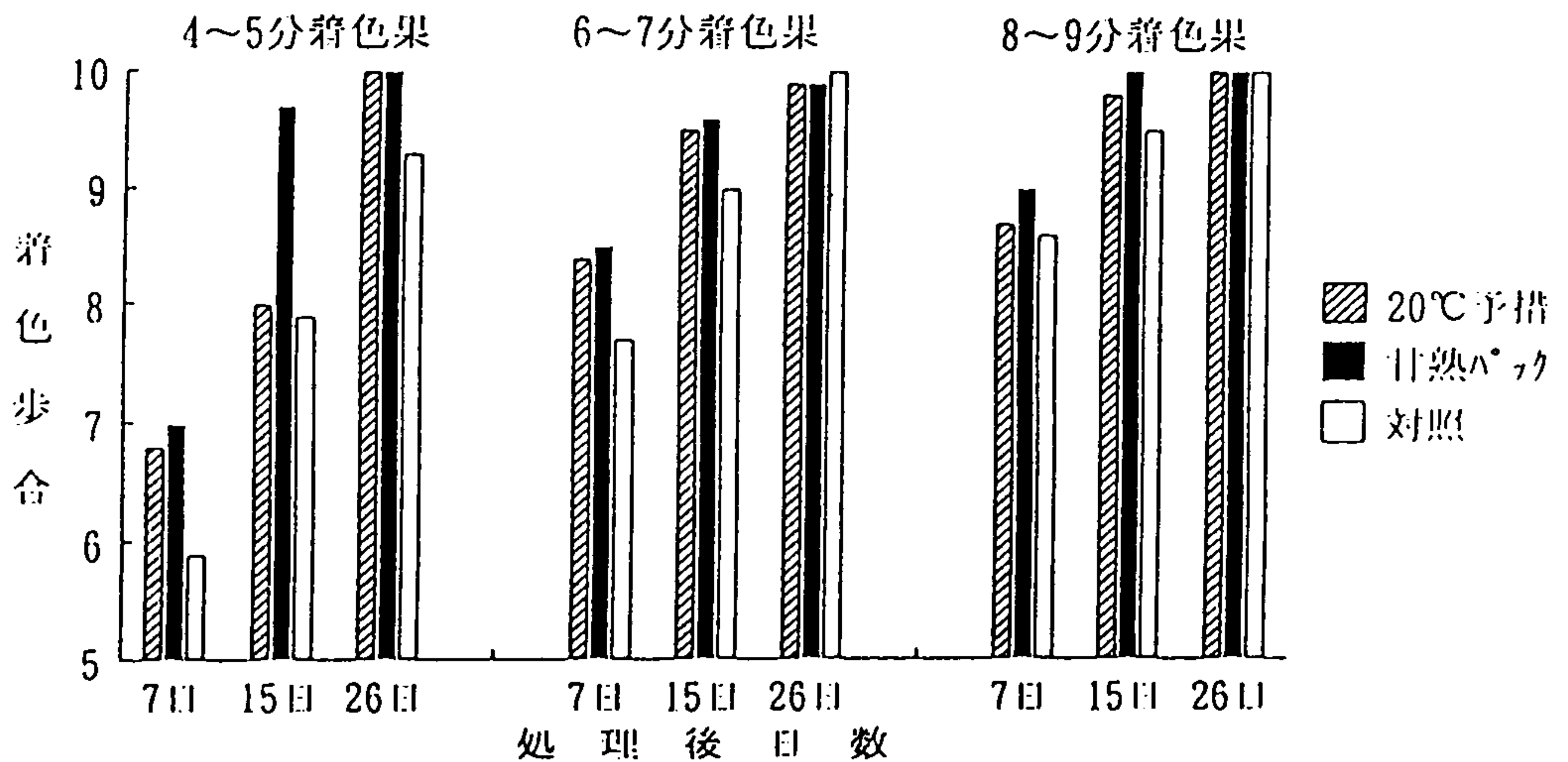


図1 「早香」の20℃予措及びエチレン処理が果皮の着色に及ぼす影響

表1 「早香」の20℃予措及びエチレン処理が果皮の着色，果皮障害に及ぼす影響^{*}

処理時 着色	処 理	果皮色 (a / b 値)			しなび (%)	浮き皮 [†]
		果梗部	赤道部	果頂部		
4~5分	20℃予措	0.65	0.59	0.69	6.0	53.3
	甘熟ハック	0.67	0.70	0.79	100.0	7.4
	対照	0.63	0.65	0.74	100.0	10.0
6~7分	20℃予措	0.67	0.68	0.76	0.0	43.3
	甘熟ハック	0.71	0.70	0.80	75.0	23.3
	対照	0.66	0.66	0.76	89.5	22.8
8~9分	20℃予措	0.72	0.72	0.80	0.0	42.2
	甘熟ハック	0.74	0.74	0.81	100.0	35.1
	対照	0.70	0.73	0.83	100.0	26.3

^{*} 12月11日収穫処理 1月 6日調査

$$\text{浮き皮果の発生度} = \frac{\sum (\text{発生程度別果数} \times \text{発生指数})}{3 \times \text{調査果数}} \times 100$$

[その他]

研究課題名：中晩生カンキツの特性調査並びに栽培試験

予算区分：県単

研究期間：平成4年（平成1～5年）

研究担当者：松永茂治

既発表論文等：平成4年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：浮き皮果の軽減方法について検討が必要である。